

第1回 第2期伊賀市中心市街地基本計画策定委員会 議事録

- 日時：平成31年3月15日（金）10：00～12：00
- 場所：伊賀市役所 501会議室
- 出席者：山本禎昭委員、廣澤浩一委員、石橋正行委員、中村忠明委員、南徹雄委員、家喜正治委員、小丸勅司委員、平井俊圭委員、菊山美早委員、久隆浩委員、杉山美佐委員、佐藤良子委員、高橋健作委員、大田智洋委員、中澤留美委員、久保千晴委員
(欠席：柘植満博委員、福山浩司委員、豊福裕二委員、大森秀俊委員)
- 出席者：産業振興部 服部部長、前川次長、中心市街地推進課 堀川課長、尾登主査、松尾主任、伊賀市中心市街地活性化協議会 山崎事務局長、上野商工会議所 佐治事務局長

1. 開会

※ 伊賀市産業振興部の前川次長から開会のあいさつを行った。会長が選任されるまでの間、前川次長が会議の進行を行った。また、前川次長から、市長、副市長とも当委員会に出席の予定であったが、急遽、公務と重なったため欠席となった旨の報告あり。

2. 委員の委嘱・任命

※ 伊賀市産業振興部の服部部長から委員の委嘱状の交付を行った。

3. あいさつ

※ 服部部長からあいさつを行った後、各委員から自己紹介を行った。
また、前川次長から4名の委員が欠席との報告があった。
引き続き、前川次長から事務局の紹介を行った。

4. 伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会設置要綱について

※ 事務局から、資料1の「伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会設置要綱」の説明を行った。

5. 委員長、副委員長の選任について

※ 事務局から、委員長、副委員長の選任について意見を求めたところ、事務局一任の発言があり、事務局案として久委員を委員長に、山本委員を副委員長とすることを提案し、了承を得た。

※ 久委員、山本委員がそれぞれ委員長席と副委員長席に移動し、あいさつを行った後、ここから久委員長が会議の進行を行った。）

6. 協議事項

(1) 伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会運営規程（案）について

※ 事務局から、資料2の「伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会運営規程（案）」について説明を行い、委員長が意見を求めたところ、「異議なし」の発言があり、同案により運営することです了承を得た。

(2) 中心市街地活性化制度の概要について

※ 事務局から、資料3の「中心市街地活性化制度の概要」について説明を行い、委員長が意見を求めたところ、以下の意見があった。

(委員)

今の説明にあった、計画策定の早さを優先して国の認定を考えないという意味がよくわからない。認定をうけないことのデメリットもあると思うので、そのデメリットとも相談しながら進めていくことも大切なのではないかという気がする。そのメリット、デメリットを説明してほしい。

(事務局)

認定をうけるメリットとしては、国のいろんな支援をうけることができる。デメリットは、この認定をうけるまでの期間が相当かかる。1年以上、1年半程度はかかる。実際に、事業を実行していく期間がかなり先になってしまう。メリットの方の支援については、省庁別にいろんなメニューがあり、特に国土交通省関係の支援については、認定をうけなくても、現在考えている事業は同じような支援が可能と想定している。

ただ、特に差が生じるのは、経済産業省関係の支援に限っては、認定をうけないと支援をうけられないことになっている。メニューの中の民間事業をどのように想定していくのかということに、認定をうける、うけないの判断が出てくると考えている。現在のところ、できるだけ早く実行していきたいということで、11月までにこの計画をつくり、早く実行していきたいというのが基本的な考え方である。

(委員長)

今日は時間もないので第2回目以降で、全国の活性化の事例でうまくいっているところも紹介しながら、議論したいと考えているが、中心市街地活性化計画ができたのは20年以上前であり、かつては大きな計画をつくり、大きくまちを動かして活性化させるストーリーがほとんどであった。ここ10年ほどは、全国で元気になっているまちのやり方は、例えば町家の改修とか、小さな物件で魅力的な店をつくって客を呼び、さらにその効果で新たな店が並んでいくというふうに、小さなところから生み出して、大きく動かしていくタイプの活性化の方が主流となっている。それをエリアリノベーションというが、建物の改装をリノベーションというが、まち自体をどのように魅力的にしていくかということが、エリアリノベーションであり、これがうまくいっているまちは、やれる人たちが小さなものを少しずつ動かして、それをつないでいながら、まちの魅力をアップしていくやり方が多い。

今、上野のまちでどんなおもしろい取組が生まれているのか。まだそれが点の状態であり、それをストーリーとして線につなぎ、面に展開していくことができれば、自ずとまちは元気になっていく。さらには、その空き店舗を改装する補助金は、大きなメニューにのらなくても出る。そうした小さな補助金を組み合わせながら、計画から始めるのではなく、何かをやりたいというときに、どういう支援がうけられるかというところを探していく、逆の順番で事務局も考えていきたいということなので、このあたりは次回以降の具体的な展開の中で、そういう進め方が良いのか、或いは従来型の大きな計画をつくり、ドンとまちを変えていくのが良いのか、議論を重ねていきたい。とりあえず、事務局は大きな計画ではない、新たなかたちの活性化を考えたいということなので、次回以降それに基づき計画の案がでてくるので、また変更のお願いもできると思う。

(委員)

大きな箱を整備して、それで人が来るという考え方は通用しないと思うので、委員長の言われるとおりでと思う。

(委員)

県にいたので、道路行政のほうで奈良町のまちづくりに関わったことがある。広小路から天神さん、全然、人が歩いていない。一行通行のところ、市内の広小路から本町通り、岡三証券のところ。観光客が間違えて入っていく。それを一方通行とわかる看板があるが、わかりにくい。動線の方を先に考える必要がある。やはり活性化を考えるうえでも、動線が大事である。

(委員長)

少し内容に踏み込んだ意見をいただいたが、またそういう話を次回以降も持ち寄りながら、上野なりの活性化の方法と一緒に考えたいと思う。

(3) 伊賀市中心市街地活性基本計画の経過について

※ 事務局から、資料4の「伊賀市中心市街地活性基本計画の経過」について説明を行い、委員長が意見を求めたところ、以下の意見があった。

(委員)

資料4の中で平成30年11月、12月と2月の3回、庁内で市民不在の中で会議をしたとなっているが、この会議の内容はどこかの時点で説明があるのか。

(事務局)

会議の内容は、2期計画に向けて市としてどういう事業を考えていけば良いのか、ということであり、この策定委員会が主体である。庁内会議の意見や市民の方からこんな事業も必要でないかという提案についても、この策定委員会にするように考えている。策定委員会へ諮るための庁内的な準備のための会議と考えているので、庁内会議だけで決定するものではない。また、庁内検討結果についてもこの委員会の方に諮りたいと考えている。

(4) 中心市街地の現状と課題について

※ 事務局から、資料5の「中心市街地の現状と課題」について説明を行い、委員長が意見を求めたところ、以下の意見があった。

(委員)

町の声を知っていると、市役所が変わってから一気に人の通りが減ったと言われている。そうした中で現況資料5の大型店の資料について、上野ふれあいプラザ内のヤオヒコがあがっていないので再度確認してほしい。

(事務局)

商工労働課で調査しているが、再度確認させてほしい。

(委員長)

かなり厳しい状況であるということだが、こういうことばかりだと気分もめいってくるので、こういういいこともあるよ、というような小さな出来事でも良いので、次回以降はそうした明るいきざしや、新しい芽吹きなどをとりあげて議論した方が前向きの議論ができる。

(委員)

うれしい報告がある。先般、観光庁長官が来られて、天神商店街を見てもらったら大変感動されて、携帯で写真を撮られて、観光庁へ帰ってから、こんなすごい商店街ができたよ、その経過を天神さんの方に問い合わせがきた。天神商店街の方でアーケードをリニューアルした。まず核をつくろうとした。参考に聞いておいてもらいたいですが、実は

市長と会頭と私とで意見交換を行った。その中で全体のまちの構想をどうしようかというアウトラインをつくらうとなり、天神さんについては芭蕉を中心に考えていこうとなり、天神さんから西については忍者を中心に考えていこうというアウトラインをつくった。それに沿ったまちづくりをしていこうということで進めている。

今度、大垣市長と伊賀市長が寄り、奥の細道330年というイベントを仕掛けるそうだが、全てまちづくりに活かしていかないといけないと思う。忍者フェスタも平日にまちの中で体験道場をつかっていこうと、空き家対策になる。或いは高齢者の仕事を開発していくことも考えている。従来からのまちかど博物館も現在、沈んでいるが、そういうものも全て中活の中で活かしていかないと、いい宝を持ちながら絵に描いた餅になってしまう。

来年くらいから天神さんの方も二期工事をやり整備していく。神社なので、政教分離で国からお金が出ないので、神社の基本財産を使いながらやっていきたい。そうしたものをうまく開発に活かしてもらおうということが大事だと思う。第二期工事のはじめに南庁舎の問題でゴテゴテして答申まで出したが、恐らく申請しても却下されるという意見が大半であったので、やらなかったということになっている。大型店舗が外へ出て行くことは、中活にとっては難しい問題である。とはいえ、そこが一つの核になってきたら、また意見も変わってくるのではないかと考えている。それがないと、この問題が進まないと思う。議会でどうなっているかわからないが、市長は前向きでいっているが、議会がどうも後ろ向きであるのではないかとということで、その辺も十分に議会にも説明してやらないと、この中活問題はできないと思う。

(委員長)

また、こういうようないろんな資源等を持ち寄りながら、次回以降で議論を重ねていきたい。私も学生と一緒に来た以外も歩かせてもらっているが、沢山とは言えないがいくつも資源があると思っている。もう既にある資源もあるし、もう少し磨けばさらに良くなる資源もまちなかに沢山ある。大阪の茨木に住んでおり、今日も新名神の甲南インターで降りて伊賀にきているが、毎回、道を変えている。郊外部のいろんなまちも拝見できる。その郊外にも、いくつも素敵なものがあると認識している。このあたりもつないでいく、ストーリー化していくことができれば、もっといいまちになっていくのではないかと期待している。また、このあたりは、次回こういう議論をさせていただくので、今日はあまり準備をしていないかも知れないが、次回、自分も持っているネタを、少しずつ披露し合っていければと思う。

それともうひとつ、私たちは3つの視点というか、自分なりに立場をもっている。例えば、事業者は事業者としてここに参加しているかも知れないが、一方でどこかで買物や食事をしたりしていると思うので、消費者でもある。だから、ここは全員消費者の立場ももっている。自分が買物をするとか、飲食をするときにまちなかの店舗をどれだけ活用しているか、ということが消費者目線で議論できる。さらには、観光客として様々なところに行かれていると思うので、他地域に観光に行かれたときに、これ素敵だな、これはもう一つ面白くなかったなとか、経験もあると思うので、その経験もここに反映もできると思う。一人の中に事業者の立場、消費者の立場、そして観光客の立場があるので、そういう観点で自分事としてこれから議論ができればと思う。

(5) 第2期伊賀市中心市街地活性化基本計画の概要について

※ 事務局から、資料6の「第2期伊賀市中心市街地活性化基本計画の概要」について説明を行った。(特に意見なし)

(6) アンケート調査について

※ 事務局から、資料7の「アンケート調査」について説明を行い、委員長が意見を求めたところ、以下の意見があった。

(委員)

アンケートの設問の7-1と7-2について、「中心市街地に住みたい理由」を書くところはあるが、「中心市街地に住みたくない理由」を書くところもあった方が、住みたくない理由がわかるので良いと思う。

(委員長)

もうひとつ言、住みたいが住めない人もいると思う。例えば適当な住宅がないとか、そういう人たちがカギでないかと思う。せっかく住みたいと思う気持ちがあっても、住めない状況なのか。そこを改善することによって、そういう人たちが住んでもらえるようになるので、もう一つ選択肢と理由を付け加えたら良いと思う。

(委員)

このアンケートで、中心市街地の定義が非常にわかりにくい。やはり、地図をつけていただいて、ここからここまでが中心市街地だというように、しっかりと明示していただいた方が良いと思う。人それぞれ、中心市街地の思いもバラバラだと思う。それと、アンケートばかりとっているが、今の新しい思いを比較することはいいのかもわからないが、過去にとったアンケートもあるので、集計するときに、こういう風に意識が変わっているところを、結果として出していただけると良いと思う。

(委員)

今、区域をアンケートに示せと言うことであったが、この区域について、この委員会で大きなテーマとして提案しようと思っている。このアンケートの中で区域を示されると、いろいろややこしくなるので、それはやめてほしい。そのためには、基本的に住民自治の地区としてのいろいろの悩みなり、考え方があるので、そうしたものをしっかりとこの委員会に提案していきたいので、是非よろしくお願ひしたい。

(委員長)

今の話は切り分けさせていただいて、今回のアンケートで示す区域が概ねということで、次回以降そのあたりの計画区域をどうするかという議論を、切り分けさせていただいた方が良いかと思う。(アンケートには)概ねこのあたりということを示した方が良いと思うので、答える側も答えやすいし、我々も分析するときに、どの店を利用しているかという範囲がわからないと、分析できないので。今の意見は切り分けさせていただいて、次回の計画区域案の段階で、またご意見をお願いしたい。

(委員)

ただ、上野城下町という表現を使っている部分もあり、それから中心市街地という言い方を使っているところもあり、上野城下町というと、町の頭に「上野」がつく上野〇〇町とか言うのが基本であると思っている。そういったことで議論したいと思っているので、誤解のないようにしてほしい。

(委員長)

そのあたりは、きちんと文章や図面でも、間違いなくしていただくということでお願

いしたい。

(委員)

伊賀市の調査では、上野ふれあいプラザの活用が、平成16年の数字だと思うが、年間6万人きた。それはイベントをやっていたから集まってきたので、3頁の6番目に中心市街地に行きたくなる条件のところに、できたら文化とか学習というのを入れていただいたらどうか。

(委員長)

言われるとおりにかと思う。また持ち帰っていただき、気がついたら事務局に届けていただくこととして、作業的に事務局としては、期限をどれくらいに切らせていただければ良いか。

(事務局)

早ければ早いほうがありがたいが、来週一週間、来週末を目途にお願いしたい。直接、電話いただければありがたい。

(委員長)

それでは、来週金曜日までに電話、メール、ファックス等をお願いしたい。

(7) 中心市街地活性化の目標設定について

※ 事務局から、資料8の「中心市街地活性化の目標設定」について説明を行い、委員長が意見を求めたところ、以下の意見があった。

(委員)

全体的には良くできていると思うが、一点だけ気になるところがある。基本方針2のところの目標の下のところ(事業の視点)で、「2. 拠点/拠点施設づくり」に南庁舎活用事業というのがあるが、既に庁舎は移っているので庁舎はどこにあるの、という話である。「旧南庁舎」になると思うが、この旧庁舎をどのようにするかは、議会でもはっきりと決まっていなくて、民意もはっきりと決まっていなくて、ここで書いてしまうと、あの庁舎を活用してしまうのか、というふうに固定化されてしまう恐れがあるので、例えば「旧市役所エリア」とか、固定化されることのないような文言にさせていただいた方が、中活審議会の中でも偏った意見にならないと思うので、検討してほしい。

(委員長)

恐らく、ここは内容がどこまで煮詰まるかで、これを書けるか、書けないか決まってくると思うので、そあたりも検討いただきたい。

(委員)

どういう言葉に直すのか。

(委員長)

ここで直すのではなく、その意見を賜って基本計画の案をつくっていただくので、その内容に基づいて、多分、書く、書かないも含めて検討いただけたらと思う。

(委員)

今、いろいろ資料をいただいて、いよいよ第2期が始まる訳だが、今まで10年かけてこのまちが第1期でいろいろ調査をし、資料をつくり、計画書をつくりやったところが現状の姿である。この2期については、あちらこちらの市を経験していると、中心市街地の活性化は遅々として進んでいない、問題だらけで大苦戦が現状である。

何故これが進まないか、いろいろ原因があると思うが、実は伊賀市で先般から三重大

学と産官学のセミナーで、金沢市と岐阜県の柳ヶ瀬の商店街の事例の発表があった。先日は、新潟県の村上市の吉川さんがあの黒堀の取組とまちの活性化を、行政の大きな、中心市街地をはじめ、都市計画を白紙に戻し、城下町なので今の古いまちなみを、民間の手で元気のある皆さんたちが一丸となって取り組んだ事例がある。その他、様々なまちの書籍を読んでいると、共通しているのは決してコンサルタントとか、業者とか行政だけが先行しているのではないと思った。やはり、地域の自治協の皆さんをはじめ、地域の元気のある、或いはやる気のある取組をする人たちの力が基本になっていると思う。地域の人たちがやる気をもってやる、いろんな計画ができて、それが遅々として実行レベルに入っていないというのは、共通していると思う。全国にいろいろ小さなことでも成功事例が沢山あると思う。かつて、30代のはじめに村上市にいたが、寂れたさみしい日本海の厳しいところであった。そのまちが今もう一度行ってみたいと思ったのは、地域の皆さんがまちおこしをやって成功して、すごい観光客が来て、しかも鮭を中心にした料理とか、伝統を守って、いわゆるまちが明るくなった事例がある。やはり先進地をもう少し見て、今から伊賀市は何と何から取り組むんだと、いろんな会議とか、委員会とか、なんとか会社とかつくっても、遅々として進まないと思う。

それから行政のやり方について、批判をするのではないが、方法を変えないといけないと思うのは、例えばポケットパークに7千万も8千万もかけてトイレをつくる、それは国からの補助金が出るから市の負担は少ないが、ではどうしてああいう看板が跡地に、皆さんご覧になりましたよね、あれは地元の中心の自治会との話、7千万あるがどのように使おうかと、まちなみもすっかり変わる、そういうことを、いいものをつくる、新しいものをつくることは必要かも知れないが、それぞれ成功している事例というのは、あるものを、町家とか、どう活かして使うか、お金も少なくても済む。村上の例で言うと、村上市の駅の前に6千万かけて観光案内所をつくったと、まちなみを直すのに10何年かけて6千万も使っていない。例えば、また永楽館を業者とコンサルタントにそれも数千万というお金をかけてやろうとしている。やるのは結構だが、そのやり方、手法を地元の人にどういう協議というか、アイデアというか、意見を聞くとか、そういうところが、大きなものがいくつかあるが、もっともっとやらなければならないことが沢山あるように思う。

だから、第2期では実現可能な小さいことからかたちになって見えてくる、一つ一つが見える化をして進めるような、中心市街地のあり方に取り組んでいかなければいけないと思う。

(委員長)

中心市街地活性化計画を各地でつくらせていただくと、公衆トイレをつくらなくても店にトイレがあるでしょうと、そこをトイレだけでも使ってください、というメッセージを出すだけでも客は喜んで来てくれる。全ての店舗がそうだと良いかと思う。あるものをお金をかけずにちょっと工夫するということで、利用できるようなアイデアとか、既にやっているなら全店舗展開しませんかとか、そんな話をいただければ、そんなに無理のない計画が実現できるのではないかと思う。

枠組みとか、柱立てのところ、こちらから3点お願いしたい。まず基本方針1のところ、ここは住まいづくりの話であるが、移住された人はわかると思うが、いい物件があっても暮らしは成り立たないので、暮らし支援の視点も重点的に書いていただきたい

い。例えば、ご近所づきあいの問題もあるし、子どもが小さいときは子育て環境の問題もあるし、もう少し大きくなったら教育環境の話もあるし、そういうものがあってはじめて移住が成り立つ。決して物件だけの話にとどまってはほしくない。

二点目は観光である。この中心市街地だけで観光客を回すだけではなく、広域との連携、その拠点として、入り口として中心市街地という観点を是非ともほしい。具体的に言うと、モクモクファームには客は来ている訳で、全国的にも有名である。モクモクファームに行った人がこちらに流れてくる、或いはこちらを訪れて最後にモクモクファームで食事をして帰るとか、そういう観点でここだけで閉じさせない方が広がりが出てくるかと思う。

三点目は、マップもいいが、シビックプライドとも関係するが、まちなかで住んでいる人、まちなかで事業を営んでいる人が、どういうふうに観光客に口添えするかによって観光客の行動が決まる。例えば、この前うちの学生が訪れて美味しい伊賀牛を食べたいと思ったが、金谷さんは学生には無理なので、まちを歩いている人に安くて美味しい店を聞いた、紹介されたのがシティホテルである。結局、まちを歩いている人とか、まちに住んでいる人が観光客に美味しい店とか、ここ行ったら面白いよ、とかいう情報がとても重要である。それはマップではなくて口コミだから、みんながこのまちのことをよく知って、どういうところを観光客に口コミで伝えれば、どういう行動につながるかは、住民ぐるみで考えていただきたい、という観点を是非ともここにも入れておいてほしい。シビックプライドと観光がつながったところだと思うので、その観点も是非とも検討いただきたい。

次回は、もう少し内容を示していただくとと思うので、是非とも内容に関して意見をいただきたいと思う。

最後に、滋賀県の彦根市も案外うまくいっている。彦根は商工会議所の足立さんが引っ張って行って、頑張って30年引っ張ってくれたが、その中で花しょうぶ通り商店街という、お城から一番遠い商店街のキャッチフレーズの話をして終わりたいが、「100の愚痴よりも10の計画、10の計画よりも1の実行」ということである。つまり、いくら愚痴を言っても前に進まない。それであれば、前向きの計画をつくったほうが良い。でも計画は絵に描いた餅。それであれば、一つ一つ実行しようではないか、というのが彦根の花しょうぶ通り商店街のキャッチフレーズである。

まさしく、これが地域の活性化のことだと思う。小さなことでも良いので、一つ一つ実行して行って、それをつないでいくと見事にまちは元気になっていくということを、再度、共有させていただければと思う。それと、もう既にやっていたりしていることを、この計画の中に十分盛り込んでいただくことが重要だと思うので、そういう情報も持ち寄っていただければと思う。

(8) その他

※ 事務局から、次回以降の委員会予定について説明を行った後、閉会した。

(以上)